



■ネパールにて現地の子どもたちと共に

の1993年には23年間
続けてきた教職を辞め、単
身ネパールへの移住を決意
したのだった。

ネパールで支援活動を始
めた当初、ネパール語も解か
らず、村人からの頼みごとには
いつも英語で「OK、何と
かしてみるよ」と答えていた
垣見氏は、ネパール語で
“おじいさん”という意味
を持つ「バジ(Baji)」と
併せ「OKバジ」と呼ばれる
ようになった。そんなOK
バジの活動方針は、20年
以上経った今も変わらない。

どの団体にも属さず、自分
の組織を立ち上げることも
なく、名声も謝礼も求めない
個人的なボランティア活動。
ドリマラ村を拠点に、リュック
サックを背負い、近郊の村々
を歩いて訪ね、そこで出会う
人々との話に耳を傾ける。
飲料水の確保、学校建設、
医療施設の設置等々、その
村で生活する人々が直面し
ている問題に、垣見氏は自
主的かつ持続的な解決策を
見いだす手伝いをしている。

1997年にネパール国
王からゴルカダッチンパウ勲
四等勲章を授与されると、
2009年には吉川英治
文化賞も受賞。また、滞在
10年の節目の年には、村
人たちによる式典が開催
され、1万5千人もの人々

が集まったことから、いか
に垣見氏の評価が高く、
そして人望が厚いのか
が伺い知れる。

毎年、ネパールが雨期に入
り、村々を回れなくなる6
月と7月の2ヶ月間、垣見
氏は日本に帰国する。垣見
氏の活動に賛同してくれる
支援者に挨拶し、活動報告
をするためである。日本滞
在中には全国を講演して回
る垣見氏だが、講演のない
日の移動は公共機関を使わ

ないのだという。理由は数
百円でも貯金をするため。
貯めたお金でネパール人にお
米をプレゼントするためだ。

ネパールでの活動の中で、
「人の手助けをするのは
こんなに嬉しいものなんだ
と気付いた」という垣見氏。
自分のためではなく他人の
ために、小さなことでも
出来ることを少しずつやる。
OKバジのその姿勢と活動は、
これからも続いていく。

＊荷物を運ぶ人



■子どもたちと共に笑顔で踊る垣見氏

私立順心女子学園(現・
広尾学園)の英語教師だっ
た垣見一雅氏が、初めてネパ
ールを訪れたのは1988
年。トレッキングの趣味が
高じて「ヒマラヤを見てみ
たい」というのが動機だった。

その後、ネパールに通うよ
うになった垣見氏は、199
0年、登山中に大きな雪崩
に遭遇、同行していたネパ
ール人ポーターが命を落とす
てしまうことになる。「なにか

借りができたような感じが
した」という思いから、亡く
なったポーターが暮らして
いたネパール国パルパ県ジャ
ルパ郡ドリマラ村を199
2年に訪れると、女性た
ちが毎日水汲みの重労働
に喘でいるという、村人た
ちの貧困生活を目の当たり
にした。その光景に衝撃を
受けた垣見氏は「この人た
ちのために役に立ちたい」
という感情を抱き、翌年

ネパールのOKバジ

村人へ歩いて届けるボランティア精神

ボランティア部門(国際)



かき み かず まさ
垣見 一雅
Kazumasa Kakimi

所属団体 無し
None

推薦者 **北谷 勝秀** 特定非営利活動法人2050 理事長
清水 嘉与子 公益財団法人日本訪問看護財団 理事長

1939年生まれ。早稲田大学卒業。私立順心女子学園(現・
広尾学園)で教師として23年間勤務すると同時に、垣見塾を
経営。ヒマラヤに憧れネパールを訪れたことがきっかけで、1993
年、54歳の時にネパール国パルパ県ジャルパ郡ドリマラ村に単
身移住。以来、近郊の村々を歩いて回りながらボランティア活動
を続けている。1997年にはネパール国王からゴルカダッチンパウ
勲四等勲章を授与される。2009年には吉川英治文化賞を
受賞。活動紹介書籍に『笑顔の架け橋～ネパールから感謝を
こめて』があり、その収益は全額ネパール支援に使われている。